

## 訪問リハビリテーションのあり方について

### ～訪問リハビリテーション事業所と訪問看護ステーションの比較～

野本 正仁<sup>1)</sup> 平野 佳美<sup>1)</sup> 石森 卓矢<sup>1)</sup> 腰塚 洋介<sup>1)</sup> 富田 庸介<sup>2)</sup>

美原 貫<sup>3)</sup> 美原 盤<sup>4)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部

2) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション科

3) 公益財団法人脳血管研究所 在宅医療・介護統括局

4) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

[はじめに]訪問リハ事業所と訪看ステーションから提供されるリハのプロセス、アウトカムを比較し、訪問リハのあり方について検討した。

[対象・方法]当院回復期リハ病棟退院後における訪問リハの利用者 20 名(訪リハ群)とリハ職による訪問看護の利用者 97 名(訪看群)を対象とした。両群対象者の開始時と終了時の FIM、FAI、LSA、1 日あたりのリハ時間、訪問頻度、利用期間など計 12 項目について群間比較を行った。さらに、訪リハ群と訪看群それぞれにおける開始時と終了時の FIM、FAI、LSA の群内比較を行った。

[結果]訪リハ群は訪看群に比べ、1 日あたりのリハ時間と訪問頻度が多く、利用期間が短かった ( $p < 0.05$ )。それ以外の項目に差はなかった。FIM、FAI、LSA の群内比較は、両群とも開始時に比べ終了時の得点が全て高かった ( $p < 0.05$ )。

[考察]訪問リハは、リハ職による訪問看護と比較し集中的なりハの提供により、短期間で終了に導く機能を有している。